

■ 令和8年度 第1回 秋葉区自治協議会

日時：令和8年4月24日（金）午後1時30分～

会場：秋葉区役所6階 601・602会議室

1 開会

(1) 新任委員自己紹介

(渡邊会長)

それでは、まず、今回より新しく就任された委員が2名いらっしゃいますので、自己紹介をお願いしたいと思います。では、佐藤委員、石本委員の順にあいさつをお願いしますでしょうか。

(佐藤委員)

皆さん、こんにちは。私は一般社団法人新津青年会議所、今年度、理事長をさせていただいております、佐藤栄二と申します。秋葉区自治協様とは、2年前のにいつ夏まつりの堀出神社さんのほうで行わせていただく露店出店のきらめきサポートプロジェクトに応募させていただきまして、ご一緒に事業をさせていただいたというご縁もございます。私は、自治協議会さんのほうに、なるべく出席できればと思っているのですが、たまに欠席をさせていただく場合もございますが、時間のある限り、尽力させていただきたいと考えております。よろしくお願ひいたします。

(渡邊会長)

それでは、続きまして、石本委員お願ひいたします。

(石本委員)

皆様、お世話になっております。今、ご紹介にあずかりました、秋葉社会福祉協議会事務局長を、この4月1日から拝命しております、石本裕樹と申します。前任の稲垣の残期間とはなりますが、引き続きお願ひしたいと思います。また、皆様におかれましては、社会福祉協議会の事業について、ご理解とご協力を賜り、まことに感謝を申し上げます。ありがとうございます。

私、秋葉在住で、秋葉区社協に勤務することができて、今、ちょっと感慨深い思いでいっぱいです。地域の自治がきちんとなされるように、わずかですけれども、尽力させていただきたいと思っております。よろしくお願ひいたします。

(2) 委員あいさつ（第1部会 杉田委員）

(渡邊会長)

それでは、続きまして、委員あいさつということで、第1部会の杉田委員からお願いいたします。

(杉田委員)

皆さん、こんにちは。第1部会に所属しております、杉田と申します。新潟薬科大学で教授を務めております。よろしくお願ひいたします。

私自体は、昨年度からメンバーに加えていただいて、活動をさせていただいております。毎回、委員の方々がお話をされる様子を見ていて、私も今日は少し自己紹介をさせていただいた後に、今の大学の状況をお知らせして、皆様方をお願いをさせていただきたいと思っております。

まず、私は、フルネームでは杉田耕一と申します。耕す一ということですので、ご想像つくと思うのですが、兼業農家の長男として生まれております。ただ、私がここにいるということは、そうっていないということなのですから、今、大学のほうでは、一応、私の研究室は農業ビジネス分野研究室ということになっているので、先祖代々から受け継いだ少ない土地ではありますが、何もしておりませんが、一応、我が国の、農業食品の分野に活躍する若手を育てたいということでは、少しご先祖様にも許していただきたいなというところで、日々、頑張っているところでございます。それで、私は2020年の4月に本学に着任しておりますので、それまでは、東京のある会社で勤めておりました。なので、まだ大学教員のほうが浅くて、いまだに学生たちには、ビジネスマンとしての教育をしているという状況です。

実家のほうは、三重県松阪市というところでございます。高校は伊勢なのですが、皆さん、松阪といえば、思い当たることがあるのかなというところで、私も実は、2020年の4月にこちらに来るまで全く存じ上げていなかったのですが、松阪という単語を聞いて、えっと思って調べてみますと、どうも、私の故郷から、新津松坂というものが伝わっているということをお聞きして、非常に縁を感じているところでございます。どうも調べますと、新津勝資さんですか、戦国武将が、松阪にあったその歌をこちらに持ってきたということで、非常に縁を感じているところでございます。

私の妹及び両親、親族、全部、未だに松阪市におりますので、あと、市役所の関係者もたくさん親族にいますので、話したところ、えっという話をしております。ゆくゆくは何かしらできればいいかなと勝手に思っております。

そんなこんなで、まだ私の家族は東京にいます。外から来ておりますので、そういう知らないというか、違う目線で、いろいろ見させていただいて、できればいいかなと

思っております。

次に本学の様子なのですけれども、ますます皆様にはご協力をお願いしたいなというところで、私も今年からさらに力を入れて活動しようと思っております。いよいよ来月辺りから、本格的に新津の駅前のキャンパスの工事が始まります。そこでは、その駅の周辺ということで、いろいろご迷惑をおかけするのかなというところがございますが、来年の7月には完全にできあがっており、新しい学生たちも増えてまいります。新しい学科は、グリーン・デジタル学科という学科で、その学生がメインに全学の学生が使うようなキャンパスになります。今、非常に普及しているAIやデータサイエンスを使って、食品、農業、地域に貢献するというような人材を育てるといふ学科です。私も今、その設立でいろいろ忙しくて、講義半分、大学の経営にかかわること半分みたいな形で、日々頑張っているところです。

そういう意味で、新しいキャンパスができましたら、その2階のフロアに地域連携のスペースを設けるといふことになっております。皆様方にもご利用いただけるような、学生と住民が、あといろいろな企業様が交流できるようなスペースを設けて、一生懸命やろうという形になっております。そういうこともありまして、私、2020年に来てから、2020年ということは、コロナとともに、私は東京からコロナを持ってきた人なのですけれども、しばらくこのような課外活動ができずにおりましたけれども、いよいよ元の状況に戻っておりますので、活性化させてやっていきたいと思っております。そういうこともあって、私も気合いを入れようと思つて、昨年、地域活性学会という学会に入会をして、ほかの地域の様子なども聞きつつ、ゆくゆくは、そういうところで論文とか研究発表に秋葉のことでできればいいかなと今、思っているところです。

最近、決まったこととしましては、先ほど、佐藤さんがおっしゃったのですけれども新津のまつり。Be Oneさんの活動に、授業の一環として、少しかかわらせていただくことということで、本学の学生がまつりの中に関係をさせていただいていくという形を取っております。そこでは、私のところに特定研究員を迎えまして、その研究員の方が中学校の今日、たまたま、お話になるのですけれども、中学校の部活動のことに関することをやりたいということで、そのまつりのところでは、中学生と大学生との関係性を作っていくつつ、まつりというものを盛り上げられればなというところも、具体的に取組みを今年から始めようと今、動いているところですので、いろいろとこちらの駅前キャンパスだけでなく、あちらの東島のほうにもありまして、近くに金津小学校がありという状況があって、もっと大学として貢献すべきだと私は思っているのです、まさに今日、いろいろお話あると思うのですけれども、いろいろアイデアを頂いて、本学がで

きることを可能な限り、私が学内で話を通してやっていきたいと思いますので、引き続きよろしく願いいたします。

(渡邊会長)

ありがとうございました。

2 議事

(1) 部活動の地域移行と自治協議会に期待される役割について

(渡邊会長)

それでは、次第に基づきまして、進めさせていただきます。最初に次第の2議事の(1)部活動の地域移行と自治協議会に期待される役割につきまして、中島委員、お願いいたします。

(中島委員)

皆さん、こんにちは。本日は、こども真ん中の秋葉区づくりですね。報告と提案をさせていただきます。このような貴重な機会とお時間を作っていただいたこと、心より感謝申し上げます。

テーマが、部活動の地域移行と自治協議会に期待される役割についてでございます。進め方なのですが、時間配分としては、十数分、ちょっと私のほうでお話をさせていただきますと思っています。その後、皆様から質問なり、意見なり、感想なりございましたら、お願いをいたしたいと思います。

今、お手元に関連して、このプレゼンのパワポの資料を、これからパワーポイントというデジタルツールを使って、報告をさせていただきます。野暮な道具を使うのです、大学の先生って。今、時代が求めているのは、ヒューマンパワーポイントなのですが、それもね、すみません。それと、この関連して、わくわく文化教室と出ています。これは三条の公民館から頂いた資料でございます。リーフレットですね。そして、もう一つが、あのこの半切りの紙です。アンケートということで、ぜひ皆様からかかわっての意見、感想、疑問等ございましたら、記入していただければと思います。私、これ、持ち帰りまして、整理しまして、来月も私、本会議に出席する予定ですので、そのときに集約したものをフィードバックできればと思っております。どうぞよろしくお願いをいたします。ざっくりと今日の内容でございます。こんな内容で、秋葉の現状から始まって、課題、負担と格差。あと、県内自治体の取組みということで、燕市と三条市の事例を紹介したいと思います。そして、4番目に秋葉区自治協で我々が何ができるか。この辺りをお話しできればなと思っております。

まず、新潟市の教育振興基本計画～学びのコンパス～です。こちらが昨年、作られて、2025年から32年に至る7か年計画でございます。この部活動の地域移行とかかわる施策が、この12番目です。安心安全で質の高い教育環境の整備・充実というところ。いちいち読み上げませんが、ポイントは、Well-beingの思想なのです。これは、子ども条例もそうなのですが、誰一人取り残さないとうたっているというところなのです。ここを押さえておいてほしいということなのです。地域クラブも、当然のことながらこれに当てはまるということでございます。

なぜ、行政任せにできないかということで、今回の地域移行は、本当に学校文化の僕は、革命と呼べるほどの歴史的な政策転換だと思います。現在、新潟市では、教育委員会学校支援課の地域クラブ推進室が所管しております。そのスケールの大きさから言うと、歴史的な転換ということであると、正直言って、風呂敷の広さに比べて、テーブルが小さくないかという感じは、すごくするのです。つまり、地域クラブ推進室、体制、若干の情報は伝わってきますけれども、行政組織体制として、果たして回りきれるのかという問題ですよね。教育委員会は、よく言われるとおり、縦割り化が組織の特徴として言われますけれども、横にうまく広げていけるのか、全体に広げていけるのかというところで課題があると思います。つまりは、地区すべての中学校区に行き届くのかというような現実があるのではないかとということなのです。

あと、新潟市、目標となるゴールというのでしょうか、行く先と言うのでしょうか。どこがゴールなのというか、タイムラインが見えてこないというのが、ちょっと私の情報の入れ方がよくないのかもしれませんが、要するに、先行きの見通し感がないのではないかと。ちょっと、そんな辺りが気になってはおります。

大事なことがありましたね。赤字で書きました。“区民主導のまちづくり”を推し進める秋葉区ならではの取組みがこどもの豊かな放課後時間を創出します。今日の結論はこれでございます。実は、令和8年度から新しい動き展開として、地域クラブが中心になるということでございます。これまで、中学校のスポーツ文化活動の多くは、部活中心であったのですが、これからは、地域クラブ、地域クラブ活動、地域主体の活動を中心に行われるようになるということなのです。今年度以降、もう始まっているということなのですが、平日は最長16時45分までです。学校によっては実施しないです。秋葉区も同様、休日実施しないです。平日も休日も、地域クラブ活動が中心ということで、完全移行とは言わないのですが、こうした形で移行がなされます。ただ、この16時45分という時間なのですが、実態としてどうか。中学校の平日終業時刻は、だいたい15時50分です。実質1時間取れているかということ、平日の活動が。

燕市の事例を説明しますが、燕市は 18 時までやっていますから。このホームページから転載した図にありますように、改革実行期間がスタートしまして、部活動の地域移行は、今後、地域展開へと名称が変わります。そして、これは新しい施策なのですけれども、指導者謝金・指導者研修費が減額されました。始まろうというのに減額なのですよ。50 万円が 30 万円になっています。ただ、消耗品費が 10 万円、新設されているということなのです。はっきり言って、後退と言っていいと思います。

ただ、ちょっと前向きというか、ポジティブなアクションとしては、地域クラブが学校を使用できない場合は、公共施設の使用料を補助金で支援というのが打ち出されました。これは、ありがたいことです。ただ、棒線を引っ張ったように、学校を使用できない場合という限定がついているということです。ここが、注意点ですよ。ということです。南区自治協がこの地域移行のことにに関して、新潟市に陳情したというのは知られておりますけれども、南区はこの地域クラブを公共施設の使用を優先させてくれるという陳情を出しているのです。それと、減免をセットにしろということなのですよ。そこが果たして新潟市、これからクリアできるのかというところが注目かなと思います。

秋葉の現状にいけます。これは古いのです。すみません。今年の 1 月時点での数値でしようかね。秋葉区内、現在、六つの中学校がございます。新津一、ちょっと一という字が抜けているかもしれない。新津第二、第五、小合、金津、小須戸と六つあります。これは明らかなように、秋葉区、学校格差、地域格差は、明らかなのです。小合、金津、小須戸は、この 1 月の時点ですと、地域クラブがなしといったようなことで、ただ、これから、もうすでにこの対応というのは動きとして出てくるのではないかなと思いますけれども、現状、このように新津一中、新津二中、第五中は、こうした形で継続しつつ、小合のほうはクラブ活動がないといったような状況でした。1 月の時点ですね。今現時点、変わってきているかと思えます。

要するに格差があるということなのです。つまり小さな学校が割りを食う実態になっているというのが秋葉区です。私の、うわさ話なのであれなのですが、うちの娘が吹奏楽をやっていたので、一中でね、聞いた話なのですけれども、金津中は音楽部があるのです。吹奏楽をやっていた金津の生徒が、今、合同部活で、一中に親が送迎して活動するという参加したというのはいいのだが、結果、やはり負担感が大きいんだわ。時間が合わなくて辞めたという話を聞いています。おそらく、こういうケースは、出てくるのではないですか。ほかにもあるのではないかとこのように、何か切ないですよ。親が送れなくてということなのです。という現状です。

放課後の体験格差ということが言われています。放課後の活動体験、これは果たして

贅沢品なのか、必需品なのかという議論があるわけなのですが、事実として、これは新潟ということではないのですが、スポーツ系であれ、文化系であれ、放課後の体験を一つでも得ている割合は、これ、世帯年収とすごくかかってくるのですけれども、年収 600 万を超えている家庭だと、7 割を超えています。ところが、300 万未満の家庭は、半数に満たないということです。つまり、300 万未満の家庭では、こどもの半数以上が放課後体験ゼロです。これ全体の 15 パーセントですので、決して少なくない割合なのです。つまり時間的なゆとり、経済的なゆとり、精神的なゆとりがないと、活動の参加は困難です、この国では。教員のワークバランスの解決のために、この施策というのは始まりましたけれども、親のワーク・ライフ・バランスの問題が逆に浮かび上がったという構図になっています。

こどもの貧困対策保護、こう出ています。国及び地方公共団体は、教育の機会均等が図られるよう、就学の援助、学費の援助、学習の支援、その他貧困の状況にあるこどもの教育に関する支援のために必要な施策を講ずるものとする。この法律と照らし合わせて、この現実をどう見るのかということです。私の私論で言えば、最低でも就学援助家庭への補助は必要だと思っています。

他の自治体の取組みをこれから紹介したいと思います。私、燕市の生涯学習推進委員になっておりまして、座長をやっておりまして、そこで得た情報なのですけれども、未来いきいき地域クラブというのが燕市にあります。燕は規模感が秋葉区とほぼ一緒なのです。人口 7 万 5,000 くらいかな。学校数も六つで、中学校ね。中学生の数もほぼほぼ一緒なのです。燕市は、かかるのは早くて、令和 3 年からスタートしていたかと思います。現状どうなっているかというと、令和 8 年 8 月まで、すべての土日、平日水曜は部活動休止日になっています。これは吹部を除きます。活動は平日 18 時までやっています。今年の 9 月からすべての土日、平日 2 日は部活動休止日となります。これ、吹部を含みます。活動は平日、これも 18 時まで実施します。これが来年、翌年令和 9 年になりますと、8 月まで。すべての休日と平日 2 日は部活動休止日になります。活動は平日 18 時まで実施です。令和 9 年 9 月以降になると、部活動なくなります。こういう見通し感でやっています。所感が、学校教育課から社会教育課に変更します。現在、中学校 6 校、1,700 人ですね。ほぼほぼ秋葉区と同じだと思います。もう割当てというか、スポーツ 1,000 人、文化系 350 人、無所属 350 人という数値を出しています。無所属があっという間という考え方です。部活進んでやりたくない子どもたちも、一定数いるという考えで、このような割り当てを考えているそうです。現在 51 団体あります。秋葉区はいくつくらいなのか。スポーツ協会で三十いくつとかなんか数字を見たことがありま

すけれども、51 あるのですね。保護者会、スポーツ協会、商工会、コーディネーターの方が働きかけて設立に動いていった団体機関なのですけれども、やはり燕らしさというのが、商工会というのがあるのですよね。燕というのは、ご存じのとおり、金属加工を中心とした産業集積地でございます、事業者が多いのですよ。会社が多いというか、石を投げると社長に当たるとよく言うじゃないですか。そういうまちなのですよね。

やはり商工会が動いているというのがなかなかいいなと思いますよね。あと自治会にも入っていたと言っていましたよね。あと、文化協会、観光協会です。運営費が500円なのです。掛ける運営回数ですので、これ月ですね。週に2回やれば1,000円という勘定になりますよね。ということで、小学生、中学生が参加して、51団体あるということでございます。あと燕市は、下のところにありますように、就学支援家庭のお子さんに対する減免措置があります。つまり、運営費補助金保険料を免除していますので、実質無償です。あと市内のスポーツ文化施設を使用する場合の減免施設、減免措置ですね。公営体育館とか、公民館の使用料免除がなされています。学校しぼりがないです、新潟市と違って。新潟市は学校が使えない場合ですから。燕は、学校しぼりないです。三つ目に、支援配置の必要なお子さんを受け入れる団体として、車いすダンスとか、バーチャルフィットネス、水泳などがあるといったようなことで、行き届いているのかなと、新潟市に比べるとといったような感じは正直いたします。

統括コーディネーターの人に話を聞いたのですけれども、これが組織体制なのですけれども、ほとんど、これまでトラブルとか、事故とか、報告されていないと言っていました。かなり安全面といったところが担保されているのかなと思っております。ちゃんと社会教育課が入っているのです、この組織の中に。

もう一つが、私、新津地区公民館運営審議会委員でもあるのです。名ばかりで、何もしていません。すみません。公民館に関心があって、これは三条なのですけれども、私、今年から三条マルシェの実行委員になったのです。三条マルシェをご覧になられた方は分かると思いますけれども、中心市街地活性化事業ということで、2010年にスタートしたのですけれども、年に3回、4回開催されるのですけれども、特徴はこども、若者が担い手になっているということです。運営スタッフとして、また出店者として、こども、若者が、小学生がお店を出していたりします。お店の手伝いをしていたりします。といったようなことで、非常に若者が主体的に参画している。そして、自由な表現の場になっているというのが特徴なのです。

公民館はけっこう可能性があるなど、私は思っていて、先ほどのお配りした資料で、ちょっとあまり時間がないので、細かいところまで説明できないのですけれども、これ

をあとで見てください。青少年というか、小中学生、高校生限定の公民館講座があるのです。おそらく、新潟県でこども限定の講座があるのは、僕は三条市だけだと思います。これだけのプログラムがあります。すみません。いちいち細かに見ていきませんが、すごいですよね。漫画とか、お笑いまで学べるという、このバリエーションの豊かさですよね。なぜ公民館がいいのかというと、こうした講座が開設できる。新津もそうだけれども、中高生にフリースペース開放をしていますよね。取り込みやすいのですよ、こどもって。夜、使えるじゃないですか。新津でも、たしか夜間 10 時まで使えると思います。むしろ児童館のほうが、秋葉区の児童館って、これから作られる。中高生仕様になっていなくて、あれは多分、夜間にやらないと思います。そういう設計ですよ、制度設計で、そこも考えていかなければいけない部分なのかもしれないけれども、むしろ児童館より、公民館のほうが中高生にとっては使いやすいんじゃないかなと思います。

新津の公民館で言うと、秋葉区PR大使のスマミーっていますよね。彼は新津の公民館で育った子ですからね、もう小中学生のときから、公民館の手品サークルに通って、マジシャンとして腕を磨いたというね、そういう地域人材が育っていくという、やはり公民館はそういうところがあるなということです。条例のしぼりがあるかと思いますが、うまく運用すれば、こどもを取り込めるという可能性はあるかなと思います。

最後です。秋葉区自治協で取り組めることなのですから、すみません、勝手な提案をさせていただきます。きらサポって使えるなというか、生かせるなと思わして、きらサポの仕組みはいいなと思わして、これは案ですよ、あくまでも。これに例えば、こども地域サークルの創設支援をやったらどうですかという話ですね。部門を作って、公募して、採択された団体、チームを育てて、活動支援を1年かけてやっていくということなのです。これは、どういうことかという、大人が作るのではないのです。こどもが作るのです。それを支援していくという趣旨なのです。自治協の委員がパートナーとなって、活動団体としての条件を整えて、団体登録後は自走できるように運営面でのサポートを続けるということで、必要なニーズが集まるように広報宣伝したりとか、また、公民館、コミ協、文化振興協会、スポ協ですね、観光協会などとの団体をつないで、講師の紹介とか、活動に対する助言とか、支援を得られるようにしていくというよ、これは何か楽しいな、楽しげだなと勝手に思ったのです。妄想レベルです。秋葉区ならではの地域サークルって、何があるかなと。ぱっと浮かぶのが鉄道サークル、もち麦クッキングチームとかね、朗読劇サークルとかね、アナウンスサークルとかね。あとは4コマまんがとか、あと三味線邦楽器、フラワーアレンジメント、花のまちね。つるしびなアート、ちびっこ防災チーム。これらを自治協、コミ協主催のイベントで発表

したりとか、また、にいがた秋葉っ子ふゆまつりで発表したりとか、まちなか文化祭 in にいつ鉄道商店街、今年やるのか分かりませんが、やるんだったら発表してもいいだろうし、また、メディアでもって放送したり、掲載したりというのをやってはどうか。環境としては、公民館があったり、児童館があったり、SECOND HOUSE もあるし、ですよ。というように地域学園もありますので、環境的にはできるのかなと思ったりもいたします。

最後、今後の課題になるかと思えます。一つは、南区自治協が取り組んだように、今、これは南区自治協がアンケート調査を南区の中学生の部活動地域展開にかかるアンケート調査を令和7年度やっています。すごいですよ、この調査、教員128件、保護者3,015件、地域クラブ24件という大変なサンプル数です。こどもの放課後時間の秋葉区での実態を明らかにすること。あと、家庭に対するやはり経済的な補助を充実させるという、とても大事だと思います。あと三つ目に、子どもと地域での活動をつなぐ環境を整える。そして、四つ目に、活動の場で守るべき決まりと約束を子どもとともに考えていく。そして、5番目に活動の場となる公共施設をより使いやすくするといったようなところになるかと思えます。何かこう、うちの業界もそうなのですから、新しいことを始めようとするとき、会議で出てくる発言が、金がない時間がない人がいない、だからやめようという話なのです。じゃあ、今回、やめておきましょうと。一番ないのが知恵だったりするのですけれども、私、秋葉区自治協は知恵者の集まりだと思っております。この自治協だからできる取組みというのがきっとあるかと思っております。私の勝手な思いとして、自治協は大人の放課後活動だと思っております。今、日本人に一番足りないのは遊びですからね。ぜひ皆さん、こういうことをやったらいいんじゃないかしら、こういうこともできるんじゃないでしょうかみたいなアイデア、意見をこちらに書いて、後ほど提出していただければと思います。次回の会議でフィードバックしたいと思っております。以上です。ご清聴ありがとうございました。

(渡邊会長)

中島委員ありがとうございました。根拠もきちんと示していただきつつ、具体的なご提案も頂きました。

それでは、ただいまのご説明についての質疑応答に移らせていただくのですが、大変申し訳ないですが、この本会議の後に、実は予定がありまして、ちょっと時間が遅らせられません。それで、申し訳ないですが、質疑応答のお時間、10分間とさせていただきますと思います。そのほか、まだご意見ある方につきましては、アンケートのほうに、ぜひぜひお寄せいただければと思います。それでは、ご意見、ご質問のある方、挙手を

お願いいたします。

(山崎委員)

中島委員、いろいろな貴重なお話をありがとうございました。私は金津中学校の地域教育コーディネーターということで、こちらのほうをかかわらせていただいているのですけれども、まず、クラブ活動のほうは、金津中学校は少しちょっとありがたいことに、女子のバレー部のほうは継続して頑張っているところです。あと、数年前にコミュニテイスchoolの委員さんになられた、PTA会長のほうが、先に情報を得まして、ランニングクラブというものも、数年前から立ち上げているので、細々とでは多分あると思うのですけれども、活動は継続が可能なことが、ちょっとスポーツのほうにおいてはあるのかなという情報だけ入れさせていただきます。文科系のほうが全くなくなったことは、本当に残念でなりません。金津中学校も本当に頑張っている生徒が、やはり一中さんのほうへ一生懸命頑張って向かう、中島委員がおっしゃったように、やはりちょっと続けられなかったというお話も聞きますし、それを見越した上で、正直、そちらの中学校のほうに入学をしたとか、そういった方たちも、やはりいらっしゃることも事実です。金津のよさを生かした文化部というところを、どうにかこうにか、ちょっと広げなければいけないなと思って、まだ決定ではないですけれども、まずは、私は放課後活動として居場所を作るということを、申請かけています。申請をかけて、場を開いて、生徒の意見を聞きながら、やりたいことを実現するために形を作ろうと、今年度は一生懸命、まずはそこを頑張ろうと思っています。その中で、お話しいただいたことが本当にありがたくて、力強くて、励みになりました。質問ではないのですけれども、一緒にとともに頑張っていきましょうというところだけお伝えしたかったです。ありがとうございます。

(中島委員)

ありがとうございます。本当に金津というのは、歴史文化の宝物が山ほどある宝のまちなのですけれども、本当にそうですね、バレーができるんでしたっけね。明るい兆しとして受け止めたいと思います。ただ、やっぱり造形、音楽がなくなるというのは、ちょっとさびしいですよ。音楽家がいるのに金津焼きもあるのにと思いつつ、ちょっとそういったところ、何とかならないかなというのが、先ほどのサークル、自治協が支援してサークルを作ったらどうだという提案をさせていただきましたけれども、そうした地域のサポートとつないで対応できるといいかなとは思っております。ありがとうございます。

関連して、このチラシの先ほど、本当にこれ小合ですけれども、小合も、実はこの1月の時点ですと、地域クラブなしとあったのですけれども、何かできる、できる、すご

いですね、これ。4月25日に、中学生のための地域クラブ説明会のご案内というのが、チラシとして今日、入っていましたけれども、卓球、バスケットボール、ダンス、伝統芸能、調理実習、これいいですね。5月連休以降に活動開始予定ということで、これも本当に注目すべき動きとしてあるかなと思います。小合地域コミュニティ協議会の皆様、すばらしい。ぜひこれを軌道に乗せて、こどもたちの充実した放課後の居場所づくりに取り組んでいただければと思います。

(渡邊会長)

ありがとうございます。杉田委員お願いいたします。

(杉田委員)

先生、ありがとうございました。私からの質問は、質問が一つと、ご提案が一つ。質問としましては、例えば、先ほど金津中の話が出ましたが、例えば、本学の新津キャンパスのほうの体育館を使うとか、グラウンドを使うというのは、この制度の中では、どのように考えることができるのかというのを、私が今回、このお話を伺って、大学として、地元の大学として何ができるのかなというのを考える中で、その辺の制度の問題上のことを、ちょっとご存じであれば、教えていただきたいというのが一つと、もしそういう中学生の方が、本学にお越しいただくというのは可能であればというご提案としては、これは勝手な私の私案なので、まだほかの学内の話を通してはいるわけではないので、実現可能かどうか分かりませんが、例えば、本学ですと、応用生命科学部には、理科教職の教員養成コースがございまして、例えば、今年のこの4月から、新潟県内で7名が新潟県内で教員、理科教員としてスタート。中学校が6名、小学校が1名だったかな。この4月から新任の教員としてスタートしています。ですので、今、教職、教員養成コースの学生たちが、まさにこのようなことをお引き受けすれば、彼らの教育にもなるし、中学生の方々へのいろいろなつながりにもなるのかなと思ったり、ダンスチームがあったり、野球クラブチームがあったりいろいろしておりますし、例えばお花であれば、私は新潟市のほうから、市役所さんから補助金を頂いて、秋葉のお花のブランド戦略などもやっておりますので、そういうところに、例えば一緒にかかわっていただくとか、そういうことができればいいかなというアイデアもあるので、ちょっと大学のほうに来ていただくということが制度上可能なのかというのを、ちょっとお伺いしたいです。

(中島委員)

特に制度上は受け入れていただく側でOKが出れば問題はないのかなとは思いますが、でも、本当にああそうだ、金津って東島キャンパスがあったと思って、これは大変な資源でございますよね。先生おっしゃったようには、一つには、やはり環境です

よね。環境の提供というのがありますし、あとやはり施設の開放です。あとは、先生がおっしゃったように、学生の存在というのは、すごく大きい。教職員もそうなのですが、特に私も実は教職課程の教員なのですけれども、薬科大学さんは教職課程があるのですよ。理科の先生になれるのです。つまり願ってもない。本当にこれはチャンス到来。学生が子どもたちと一緒に育つといったようなところでできますね。つまり、薬科大学にとっても、放課後サポートサークルみたいなものが立ち上がったというような可能性があるのではないかと、今、話を聞きながら、わくわくしてしまっただけです。言われてみれば、お花そうだよねとか、まさに先生がご専門とされている農業ビジネスともかかわってくるので、これはすごい資源なのだなと思いました。本当にだから、やはり安全面のところの管理なのですよね。大学って安全ですよ。本当にこんなに安全なところないのではないと思うくらい安全なので、そこら辺はしっかりと管理体制を大学のほうで整えていければ、受け入れる素地は十分にあるのではないかなと思いました。今、本当に杉田先生から心強いお言葉を頂いて、とてもうれしく思いました。そうです、金津にはキャンパスがあるのです。ありがとうございます。

(渡邊会長)

ありがとうございます。それでは、申し訳ないのですが、もうお一方かお二方くらいでお願いしたいのですが、いかがでしょうか。お願いいたします。

(青木(秀)委員)

青木と申します。よろしくお願ひいたします。今日、この自治協の会議で初めて、今までも市の責任者の方がここへ来て、話をしたりされていたのですけれども、自治協として、この議事にこれを持ってきたということは、今後もこれについて、自治協としてできることをやっいていこうという位置づけなのではないでしょうか。会長に聞いたらよろしいでしょうか。

(渡邊会長)

ありがとうございます。この自治協自体が、委員の皆様からのご提案を受け入れるというところでもあります。今、ご質問がございましたように、今後の展開につきましては、いろいろな方法があるかと思ひます。中島委員から、また、次回、この結果につきまして、ご報告いただけるということですので、議事として挙げていただくことがあります。あとは、そのほかに、皆さん、委員になっていただいたときに、事務局から頂いた資料の中にあつたかと思ひますのですけれども、検討会を作る、あるいは部会を作る、全体として勉強会を継続していく。いろいろな方法があるかと思ひますので、その方法につきましても、ぜひ皆さん、今回のアンケートでもけっこうですので、ご意見いただけたらと

思います。ありがとうございます。

(青木(秀)委員)

ありがとうございました。そうしますと、今後、この地域移行の進展具合とか、状況によってもあるのでしょうかけれども、自治協としてできることがあれば、進めていく可能性があるというとらえ方でよろしいのでしょうか。

(渡邊会長)

ありがとうございます。地域移行につきましては、それぞれの地域の特色ですとか、マンパワーの部分もあるかと思imasので、そこもぜひ、皆さんからご意見いただきながら、どうやって進めていくかというところを検討できたらいいのではないかなと思っております。

(青木(秀)委員)

ありがとうございました。全くこの部活動が急に地域移行というのが突然、出てきて、このやっている方は、地ならしもせずに、突然ぽんと話を出して、周りがあたふたしているのが現状だと思います。なので、我々としてもできることは何かというのですけれども、ただ、本当に状況が分からない中で、なかなか動けないというか、自分たちのそれこそパワーもないところであるのですけれども、今後もうこういう形で進めていくのであれば、今この会議なののですけれども、普通の活動に移ったときにも、いろいろ調べて、こちらへ持ってこれるなと思imasので、進めて参りたいと思imas。よろしくお願ひします。

(渡邊会長)

心強い言葉、ありがとうございます。それで、おっしゃるように、先ほど、山崎委員からもございましたように、地域のことは、地域の皆さんが一番よくご存じだと思いますので、そういった場面で連携できたらいいのかなと思imas。また、こちら自体が全県での取組みになっておりまして、先生、中島委員からお話ございましたように、燕市以外で、例えばですが、長岡市はスポーツ協会さんとの連携、村上市では、移動手段について、公共施設で使っているものを確保して、NPOと連携しながら活動しているという事例もあるようですので、今後、継続的に勉強していけたらいいのではないかなと思っております。

そのほか、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。では、すみません。大変申し訳ありません。では、次の議事に移らせていただきます。中島委員、丁寧なご説明ありがとうございました。

3 報告

(1) 秋葉区二十歳のつどいについて

(渡邊会長)

では、続きまして、次第の3報告(1)秋葉区二十歳のつどいにつきまして、新津地区公民館森山館長からお願いいたします。

(新津地区公民館長)

皆さん、こんにちは。新津地区公民館の森山でございます。

秋葉区二十歳のつどいについてお話しする前に、この間、行われました秋葉区一斉クリーン作戦について、皆様、ご協力大変ありがとうございました。集めたごみの量や参加人数については、また取りまとまりましたら、ご報告したいと思います。大変ありがとうございました。

秋葉区二十歳のつどいについて、お手元の資料2枚、当日配布予定のプログラムと、ホームページ、現在、掲載されている内容をご覧くださいと思います。

アキハスムプロジェクトの取組みの一つとして、秋葉で20歳を迎えた若者の人生の門出をお祝いするために「～あなたに出逢えたこの町で～令和8年度秋葉区二十歳のつどい」を開催いたします。アキハスムプロジェクトは、今さら、ご説明する必要もございませんが、秋葉区に住んだ人と住んでた人が住んでよかったと思うプロジェクトです。ひさしぶりに会う同窓生と再会し、秋葉のいいところや、思い出についても語り合っていたきたいと思っております。昨年の二十歳代表のあいさつでは、秋葉区の未来のために精進したい。参加者からは、資格の勉強を頑張って、地元で貢献できるようになりたいといったうれしい声が聞かれました。前回から記念合唱曲の「あなたに出逢えたこの町で」、これを冠につけて、出会いをキーワードとして、これまで以上に地域への愛着を育むことを目指しております。本自治協議会の渡邊会長、佐々木副会長からも、ご来賓としてご臨席いただきます。どうぞ、よろしくをお願いいたします。

二十歳代表の言葉を、このたび新津第二中学校の卒業生小川千乃さん、新津第五中学校卒業生の川内颯也さん、お二人から述べていただきます。

それでは、ここで主な見どころなどをご紹介します。式典前に、屋外でさつきちゃん、ゆうたくんと記念撮影タイムを設けます。式典後は、ステージ上で、中学校区ごとの記念撮影タイムを設ける予定です。また、中学校区に属さない方もいらっしゃるので、それ以外の方の時間も設けます。

また、今回は、特別に区内の協力企業さんによる記念撮影パネルも設置する予定となっております。秋葉区二十歳のつどいで、最高の思い出を作りたいと思っております。

おります。なお、先ほどから部活動の地域展開というお話が出ておりますが、昨年度までは、新津第一中学校合唱部として出ていただいた皆さん、今回からは新津第一中学校合唱クラブとしてのご出演となります。以上、秋葉区二十歳のつどいについてご説明をさせていただきました。ありがとうございました。

(渡邊会長)

ありがとうございます。ただいまのご説明につきまして、ご質問等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。ありがとうございました。

(2) 秋葉区ランチマップについて

(渡邊会長)

では、続きまして、(2) 秋葉区ランチマップにつきまして、甲田委員からお願いいたします。

(甲田委員)

新津商工会議所の甲田と申します。よろしくお願いたします。皆様のお手元に、この「スマミーの満腹秋葉区ランチMAP」というのを配付させていただきました。このランチマップなのですけれども、秋葉区に訪れてきた方が、ランチを提供してくれる飲食店を紹介してほしいという声がありましたので、観光協会がインスタグラマーのスマミーさん。こちらのスマミーさんは秋葉区のPR大使を務めていらっしゃるのですけれども、その方と協力して、マップを作成いたしました。もうすでに見かけた方もいらっしゃるかと思うのですけれども、JRの新津駅ですとか、あと、秋葉区内の公共施設、こちらの区役所にも置いてあります。1万部発行したのですけれども、すでにもう在庫が少なくなっている状態です。増刷することが決定しました。増刷の発行時期は9月末になります。皆様、お手に取っていただいて、そして、いろいろな方に紹介していただければ、うれしいと思います。どうぞ、よろしくお願いたします。以上です。

(渡邊会長)

ありがとうございました。ただいまのご説明につきまして、ご質問等ございますでしょうか。杉田委員お願いたします。

(杉田委員)

質問です。これ初版ということなのですけれども、今後どれくらいの頻度で出されていくような予定とか、取材活動の今後の予定というところをちょっとお伺いできればなと思います。

(甲田委員)

今後の予定なのですが、増刷に伴いまして、またちょっとうちも載せてほしいというところがありまして、またスマミーさんを通してですので、スマミーさんの審美眼にかなったところが多分、載るのかなと思います。そうですね、やはり第2弾も出してほしいという声がたくさんあれば、きっと次につながると思いますので、皆様、ここも載せてほしいと思うところだったら、ぜひぜひ声を上げていただきたいと思います。以上です。

(渡邊会長)

ありがとうございます。そのほか、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

4 部会報告

(渡邊会長)

では、なければ、次に次第の4部会報告になります。各部会より活動報告をお願いいたします。第1部会、第2部会、第3部会、広報部会、秋葉区未来ビジョン部会、こども真ん中プロジェクト部会の順でお願いできればと思います。ご質問等は、すべての部会が終わってからとさせていただきます。それでは、第1部会の小菅部会長からお願いいたします。

(小菅委員)

第1部会の小菅です。よろしくお願ひいたします。

第1部会からは、きらめきサポートプロジェクトについてです。今年は11団体から応募があり、採択事業の決定を行うため、先週金曜日に一次審査を実施いたしました。その中で6団体が通過をし、1団体は採択決定しました。残りの5団体につきましては、本日、本会議終了後に、2次審査のプレゼンテーションを行う予定としております。採択団体につきましては、次回5月の本会議で報告をさせていただきたいと思ひます。その後も各採択団体の活動について随時報告していきますので、引き続きよろしくお願ひいたします。私のほうからは以上でございます。ありがとうございます。

(渡邊会長)

ありがとうございました。続きまして、第2部会青木部会長をお願いいたします。

(青木(貞)委員)

第2部会青木と申します。よろしくお願ひいたします。まずもって、今回、委員になられました佐藤さん、石本さん、よろしくお願ひいたします。

それでは、第2部会から連絡とお願ひ一点申し上げます。まず、第2部会のメインであります防災活動でございます。これにつきまして、今までは、防災の講演が主で、耳

で聞いて、頭で覚えると、そういうのをやってきたのですけれども、今回は趣向を変えて、体で覚えようと、こういうことを企画いたしました。6月21日、場所は確保できなかったのですが、金津小学校の体育館、校庭グラウンド、ここを使ってやりたいと、そんなふうに考えております。やる内容につきましては、これから、また詳細を詰めていくのですけれども、雨の降る車、この体験だとか、現在、警察本部でっております特殊対応車両、この体験乗車などなど、いろいろ考えております。そんな関係で、6月21日（日）午後になりますけれども、金津の小学校校庭でやりますので、皆さんからおいでいただければ、助かります。よろしくお願ひしたいと思います。

それにつきまして、昨年、秋葉区防災の日というのを設定いたしました。このようなすばらしいのを作りました。ということで、各コミ協のほうに持ち帰られまして、掲示していただいて、皆さんから防災に関する意識を高めていただきたいと思います。こういうお願ひでございます。以上でございます。

（渡邊会長）

ありがとうございました。続きまして、第3部会山崎部会長をお願いいたします。

（山崎委員）

第3部会、部長の山崎です。令和8年3月27日に開催した、令和7年度第11回第3部会の開催概要について報告します。

協議事項は3点、1点目が、令和8年度の議事録作成当番の決定。2点目が、本会議におけるあいさつの担当の決定ということで、それぞれ委員の協議の上、決定しました。3点目として、第2回令和8年度 Akiha くみん大学の開催に向けた検討を行いました。日程については、8月上旬の平日を前提に、JRと調整中であること。鉄道の歴史に関する座学については、鉄道資料館の館長が対応を了承済みであることなどについて、事務局から報告がありました。検討の中で、対象者については、内容を踏まえて、小学3年生以上の親子とすることとしました。内容については、これまでの検討から、大きな変更はありませんが、第3回の開催も見据え、自治協らしさが見えて、まだ来ないので、次回の部会までに、自治協らしさとは何かを考えてくることとしました。報告は以上です。

（渡邊会長）

ありがとうございました。続きまして、広報部会、中島副部会長からお願いいたします。

（中島委員）

広報副部会長の中島です。令和8年3月16日に開催しました、令和7年度第3回広

報部会の開催概要について報告をいたします。FMにいつ、1点目が、毎月第二水曜日12時から、FMにいつで放送しております。ラジオ版あきはくはつものがたりについてです。次回の放送は、5月13日（水）12時からです。再放送が5月16日（土）9時からとなります。テーマは、防災。第2部会の青木委員と、もう一方、どなたかにご出演いただく予定になっております。令和8年度のFMにいつを活用したPR事業の6月以降の出演者につきましては、5月に広報部会を開催して検討の上、5月の次回の自治協の際に報告、お願いをさせていただきます。特別部会を含めて、各部会に出演をお願いする形になりますので、ご協力をお願いいたします。

もう1点がかわら版です。自治協広報紙「あきはくはつものがたり」、今年度も例年と同様、9月と3月の2回の発行を予定しております。次回のかかわら版第39号については、児童館に関する情報で掲載可能なものがないかを確認して、各部会の活動状況をお知らせしたいと考えております。時期が来ましたら、原稿作成の協力をお願いしますので、ご協力をお願いします。

そして、最後に、令和7年度の事業評価ということで、コミュニティFMを活用した秋葉区自治協議会PR事業についての評価を行いました。報告は以上です。

（渡邊会長）

ありがとうございました。

では、続きまして、未来ビジョン部会は私から、特に動きはございませんが、まずはお礼からということで、3月末にご報告にご協力いただきまして、ありがとうございました。各地域の特色ある取組み、そして交流会によって、皆様のそれぞれの地域の活動を知ることができまして、大変うれしかったです。また、それぞれの地域で取り組まれていることを、自分の地域に生かそうという視点もあつたかと思えます。これから、また、ホップステップジャンプの時期かと思えますので、これから申請の時期、楽しみにしております。どうぞよろしく願いいたします。

では、続きまして、こども真ん中プロジェクト部会、荒井部会長からお願いいたします。

（荒井委員）

こども真ん中プロジェクト部会長の荒井です。よろしく願いいたします。

今年度もアキハフジンロックフェスティバルと秋葉っ子ふゆまつりの二つのイベントの共催を予定しております。各イベントについて、今年度の開催日程をお伝え申し上げます。最初にアキハフジンロックフェスティバルにつきましては、令和8年9月22日（火）を予定しております。それから、秋葉っ子ふゆまつりでございますが、来年、令

和9年1月31日（日）を予定しております。各イベントの開催に合わせまして、随時、部会を開催する予定でございますので、皆様方のご協力をお願いいたします。報告は以上です。ありがとうございました。

（渡邊会長）

ありがとうございました。ただいまの件につきまして、ご質問、ご意見等ある方いらっしゃいますでしょうか。よろしいでしょうか。

5 その他

（1）区長あいさつ

（渡邊会長）

では、次に次第の5その他です。まずは本日、新年度1回目の会議となりますので、長崎区長よりあいさつをお願いいたします。

（区 長）

皆様、新年度が始まりましたけれども、本年度もどうぞよろしくお話をしたいと思います。

私からは、今年度の秋葉区の取組み、いくつかをちょっとご紹介をしたいのと、ご理解、ご協力を賜りたい内容についてお話をさせていただきます。また、今日、議事でありました中島委員からの提案についても、少し秋葉区の取組みをご紹介したいと思います。

まず、皆さんに見ていただきたいのは、資料でお配りしました、このA4一枚紙のものになります。今日の午前中、東部コミ協の総会に出ているのですが、各11コミ協の総会が先週から始まりまして、6月の半ばまでですべてが終わるのですが、その後、連合会の総会という形でありまして、その場に参加をしてお話をしているものを、資料としてお配りしているというのがこれになります。4月初めの区だよりで示させていただきました、令和8年のビジョン「フレイル予防で健康長寿、こども真ん中の秋葉区づくり！」と、まあそれを体現しているのが、この資料ということになります。平成19年に秋葉区、新潟市が政令市になってから、ちょうど今年が2026年、20年目ということになります。その20年間に、各コミ協の人口の推移、区もそうですけれども、どうなっているのかということを示させていただいて、各コミ協さんごとにその話をもう少し詳しく、こういう特徴がありますというお話をさせていただいています。

ちなみに、一番右が秋葉区なのですが、20年で人口が約6,000人減って、約7万3,000人ということで、ほとんど燕市と一緒です。そして、65歳以上の人口が約

5,000人増えているのに対して、生産年齢人口、いわゆる15歳から64歳が8,500人減っている。そして、こどもの数が2,300人減っている。地区ごとに赤く塗っているところがマイナスになっていますけれども、やはりまち場と農村部とかなり差が出てきている。その結果が小学校の統合ですとか、あるいは複式学級というのが生まれてきて、今日のメインになると思いますけれども、部活の地域移行の影響も、相当出ているというのが、このコミ協総会を出ていても、やはり話題はそちらのほうに行っているというのが現状です。

フレイル予防で健康長寿、こども真ん中というのは、言ってみれば、年配の方々向けの対応と、そして10代、20代を対象にした政策というように考えていただければいいのですけれども、特にフレイルに関しては、若年性の方々もけっこういらっしゃって、生活習慣、端的に言うと、運動、栄養、コミュニティ。コミュニティというのは、直接、人と対話をするという、その言語が脳を刺激することになりますので、今日、皆さん、ここに来られているということは、この三つをクリアしているということになりますし、端的に言うと、自治会町内会長だったり、コミ協の役員をやっている方々は、総じて健康長寿でいらっしゃいますよね。よくしゃべるし、人のことをよく考えたり、課題解決だったり、最近はこども真ん中というのをやらされていると、ずいぶん言われますけれども、そうやって脳の中のシナプスという、いわゆる細胞が新たにむくむくと出てくるわけですよね。その刺激がテレビではないのだそうです。デジタルではないのだそうです。直接、人と対話することによって生まれる、伸びる、あるいは探すという作業が頭の中で、それによって、細胞は活性化すると言われていましてということをおっしゃっていただいています。

もう一つ、先ほど、渡邊会長からもお話しあった未来ビジョン。未来ビジョンについては、まさにホップステップジャンプ、今年が3年目ということで、各総会でお話しているのは、来年、見直しをしますよというお話をしております。3年やって、その総括をした上で、じゃあ、新たな取組み、新陳代謝をかけましょう。継続する事業は全然やっていただいてけっこうですけれども、動いていない、あるいは結果としてだれもやるという人がなくなった事業は、そこで見直しをしましょうというお話をしております。

併せてこの裏面になりますけれども、教育懇談会、中学生、素晴らしい提案をしていただきましたよね。今年も8月4日に実施をしますけれども、各学校でもうすでに動き出し、今年の8月に向けて動き出しをしています。昨年やって分かったことが、中学生たちが言っていたのは、提案をして終わりではなくてやりたいのだということをお特に3

年生、昨年1回目だったので、生徒会、各学校、いわゆるエースを入れてきたわけですよ。校長先生を筆頭に提案をできるようにということで、夏休みも返上してやっていただいたのですけれども、まさに発表して、もう受験勉強だということで、提案だけで終わっているということがあったので、昨年の11月に、その6人の校長先生たちに集まっていたいて、ぜひ2年生で発表してほしいというお願いをしました。2年生で発表したら、その内容をその秋から冬、春にかけて実践ができると。なおかつ、各コミ協さんにぜひ提案をしていただいて、コミ協の事業としてやっていただけると、まさに実践まで行けますよねというお話をしました。

先々週ですけれども、秋葉区内の小学校の校長先生12名、中学校の校長先生6名に集まっていたいたるときには、総合的な学習で地域学習をこどもたち都合6年、最低限やります。なので、小学校の4年間は基礎編だと思って、ぜひ小学校の先生方、地域学習はヒト・モノ・コト、歴史を学んでぜひいただきたいし、中学校の2年間で応用的に提案できるところまで持って行ってくださいと。それを中2の後半から中3の前半で実践。それもコミ協の事業としてやりましょうというお話を提案をしております。そうすると、来年、未来ビジョンの見直しの中に、その中学生の提案が入ってきます。この4年間やったおかげで、小学校、中学校で、その提案の授業がどんどん生まれて今、います。なので、まさに3年前、ワークショップをやったときは、かなりこどもが入る入らないの差が11コミ協あったのですけれども、今度はもう学校が入ってきます。もう、そういうスタンスになってきますので、ぜひ、皆様方もそういうつもりで未来ビジョン、ないしはコミ協との取組みを見ていただければと思います。

部活の地域移行のお話をさせていただくと、まさにコミ協の総会に行っていると、今日お配りした小合コミ協さんのチラシにゲットできたわけです。会長が言われていたのは、中学生にアンケートをして、この項目にしたのだと。ちゃんとリサーチしているのですね。こどもたちと話した上で、この事業にしているというのが素晴らしいな。このチラシ、この事業をするに当たって、教育委員会、本局からも人を呼んで、実際にアドバイスをして、教育支援センターも加わってですけれども、やっています。ですから、教育委員会お墨付きの取組みということで、今日お配りしたのは、こういうモデル的にやっていただいているところはちゃんとありますよというのが、何よりもこども真ん中で、地域がこどもたちの意見を聞きながらやっているというのが事実としてあるということです。

もう一つ、午前中、東部コミ協の総会へ行ったとお話ししましたがけれども、昨年、5年生の授業に私、出させていただいたときに、いろいろ提案を受けていたのですね。そ

うしたら、今日、6年生の1年上がった教務主任の先生が、校長先生と一緒に来られて、総合的な学習の時間で、地域の魅力と課題について学ぶ授業をやりたいので、ぜひ地域の大人の皆さん参加してくださいというチラシを配っていらっしゃいました。あれ、去年もやったんじゃないかなかったですよと言ったら、こどもたちのほうから、もっと地域の大人のひとと話したいということをおっしゃられたのだそうです。というように、こどもたちがかなり触発されて、自分で提案をして、かつ調べて、考えて、地域のことをどんどん好きになるという循環が、間違いなく生まれてきていると思いますので、皆様方には、そういう取組み、ぜひご一緒いただければと思っております。

ちょっとプラスでいくつか情報をお話しさせていただくと、まちなか文化祭については、今、中央コミ協の、一昨日かな、会長、事務局長とお話をさせていただいて、何とかやりましょうという方向に今、これから中学校、高校に、私が直談判にまさにおじゃましてきますし、一昨日は、杉田先生にもご了解いただいて、薬科大学の3年生の地域フィールドのお時間で、50人相手に、ちょっとそんな話をさせていただき、かつ、今、産官学の三者で取り組む内容の中に、金津のリバイバルの話とクリスマスマンスリー、11月から12月の末まで、植物園と一緒にクリスマスをしましょうという話をさせていただいて、学生さんにもプレゼンをしたのですけれども、早速、学生さんからぼくのところにメールが来て、ぜひeスポーツをやりたい。なので駅前キャンパスで、毎週金曜日の夕方、集まっていると言っていましたから、ぜひ、中学生だったり、高校生だったりもありかなという、そういうつながりがやはり動くことによって、いろいろなところがつながってきていると思っております。

ちょっと雑ばくな話になりましたけれども、こどもたちは、小学校から中学3年生まで、大体、学年、秋葉区の場合は600人なので、燕市が1,700人と書いていましたけれども、大体1,800人なのですけれども、これから部活の地域移行も含めて、こどもたちが提案をし、望んでいることをどれだけできるかというのが、何よりも大人が試されていることだと思っておりますので、ぜひ皆さん方からもご理解を頂き、ご協力いただきたいと思っております。

最後に一点、なかなか実現できなくて、今年は私自身がリーダーになって、地域公共交通を変えます。それは先ほどお話があった金津線を僕は一中に通したかったのです。それは部活の地域移行のことを踏まえて、3年前からずっと言っていたのですけれども、実現しないまま、あのこの年になってしまいましたので、今年は、そのことを結論づけたいと思っております。ただ、実現するのは来年の春になると思っておりますけれども、そのためにはアンケートだったり、ヒアリングだったり、いろいろな役所の中の手続きがあ

りますので、ぜひ、第2部会の皆さんとも連携をさせていただきたいと思います。今年1年、始まりましたけれども、ぜひ皆様方とまた切磋琢磨しながら、大変なこともいっぱいあると思いますけれども、結果としていい一年だったと思っていただけるように、区役所のほうも頑張りますので、ぜひよろしくお願ひしたいと思います。本日はどうもありがとうございました。

(渡邊会長)

ありがとうございました。

(2) 所属長等自己紹介

(渡邊会長)

それでは、続きまして、秋葉区の職員体制につきまして、高橋副区長よりご報告をお願いいたします。

(副区長)

副区長兼地域総務課長の高橋です。今年度もよろしくお願ひいたします。

お手元の資料「令和8年度秋葉区関係管理職等一覧」をご覧くださいと思います。新任の職員には、アンダーラインが引いてあります。所属長でいきますと、秋学区教育支援センターの佐藤所長はじめ、地域総務課加藤課長補佐、産業振興課相馬課長補佐、秋葉消防署井本予防課長、村木消防課長、そして事務局としましては、和田係長と川崎副主査が新任となります。ここで少しお時間を頂きまして、ここに出席している新任の職員から、一言ごあいさつをさせていただきます。

(教育支援センター長)

皆さん、こんにちは。秋葉教育支援センターで、この4月から所長を仰せつかっております。佐藤孝一と申します。3月まで、新津第一中学校の校長として勤務しておりました。今ほど、部活動の地域展開について、お話がありましたので、ちょっとお時間いただきたいと思います。

私自身も、若いころに部活動で育った人間でありまして、その結果と言いますか、体育教師になり、30年ほど部活動の一線で子どもたちとかかわってまいりました。ですので、部活動の大切さ、意義深さというのは人一倍感じているつもりです。そこへ来て、部活動の地域移行、地域展開、それは何ぞやという思いでいたわけですがけれども、体制がもうこうなっていますので、部活動をなくすことは、もう、継続することは、なかなか難しいという状況になりました。そこで、では我々はどうか考えたかといいますと、地域展開に持っていくために、子どもたちの活動を途切れさせないために、どうすればい

いかということで頭をひねりまして、外部指導者の招聘、あるいは保護者会活動としての部活動の継続。部活動を教員の勤務時間まではやるけれども、それ以降は、部活動としては実践できませんので、保護者会活動や、地域の指導者を招いてのクラブ化をやってきたわけです。クラブ化することによって、メリットが三つあります。

まず一つは、主体を学校から保護者、外部指導者へ変えることによってクラブ化すると、学校の施設を優先的に使うことができます。クラブ化されていないと、部活動だけですと、もう5時で、5時45分で学校施設を使うことができなくなってしまうのですね。まず、それが一つ。

二つ目、休日の活動についても認められます。

三つ目、クラブ化すると、他校の生徒も一緒に活動ができるというメリットがあります。部活動単独ですと、その学校一つ、一校の生徒しか活動できないのですね。そういったメリットがありますので、一中は部活動を継続しながらも、クラブ化をして、並行してやっていくということにしました。

それから、大学との連携についてです。北区の事例を挙げますと、医療福祉大学がありますが、中学生が医療福祉へ行って、施設を利用して活動するというのもありますし、学生を中学校に招いて、指導者として取り入れるという動きをしています。

長くなりますが、次で終わりにします。部活動を継続している学校が秋葉区には三つありますが、この春、新入生が入ってきました。もしかしたら、入ってこない部もあるかもしれません。部の実態が今年度はじめでまた変わっていると思いますので、私のほうで集約し、5月以降になります。皆様方に部の今年度の体制をお知らせしたいと考えております。

最後です。6校の校長から意見を、あるいは要望をお聞きして、皆様に自治協議会様からやっていただきたいような要望等があれば、またそれをこの場でお伝えしたいと思っています。長くなりました。ありがとうございました。よろしく願いいたします。

(地域総務課課長補佐)

皆様、こんにちは。加藤裕之と申します。この春から、秋葉区地域総務課、地域方面の課長補佐ということで、拝命いたしました。これまでの間は、7年間、新津鉄道資料館に勤務しておりました。ちょうど1年ちょっと前、昨年3月に、鉄道資料館のシミュレーターが新しくなりますということで、この自治協議会でもご案内させていただきました。お披露目の会には、中島委員、前会長の立場でご出席いただきまして、ありがとうございました。おかげさまで、かなり多くのお客様からご利用いただいているところであります。まだ体験したことのない方がいらっしゃいましたら、ぜひ、鉄道のまち

らしさの一つの面ということで、体験していただければと思います。

そして、この春から、地域総務課の課長補佐ということで、地域部門、この自治協議会を担当します企画グループ、それから、地域コミュニティ協議会、それから自治町内会を担当させていただきます地域振興グループ、それから、文化スポーツグループ、そちらのほうをまとめる立場の課長補佐となります。皆様とまた、多々かかわることが多いかと思いますが、一緒に頑張っていきたいと思います。どうぞ、よろしく願いいたします。

(地域総務課係長)

皆様こんにちは。秋葉区地域総務課に配属されました。和田と申します。私は、ここに異動してくる前は、農業委員会事務局ということで、江南区役所のほうに勤務しておりまして、6年前、秋葉産業振興課からそちらの部署に異動して、6年ぶりに秋葉区役所に戻ってまいりました。

私、生まれは旧白根市、南区の旧白根市というところなのですが、秋葉区に住んでもう10数年ということで、私も秋葉区の住民ということで、皆様と一緒に、秋葉区の職員として、秋葉区の住民として、秋葉区の取組みを進めてまいりたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

(地域総務課副主査)

こんにちは。この4月から秋葉区地域総務課に配属になりました、川崎と申します。その前は、7年間、秋葉区の健康福祉課のほうで、窓口業務をほとんどやっていたので、ちょっと事業とかをやるのは初めてで、ちょっとすみません、今日もいろいろばたばたばたばたしていたと思うのですが、またしばらくばたばたするかと思いますが、お気づきの点があれば教えていただけますと、大変助かります。よろしく願いいたします。

私は、ずっと秋葉区生まれ秋葉区育ちで、今も秋葉区に住んでいるので、今日の話も、なんか秋葉区をよくしたいと思っている方は、こんなにいらっしゃるのだなと思って、とてもうれしく聞かせていただいております。今後とも、何かお手伝いできる場所があればさせていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

(渡邊会長)

ありがとうございました。

続きまして、次第にはございませんが、高橋副区长より、今年度の市長とすまいるトークにつきまして、ご案内がございます。よろしく願いいたします。

(副区长)

これも配付させていただきました資料をご覧いただきたいと思います。

タイトル「令和8年度市長とすまいるトークの開催についてご案内」という文書です。来る5月20日（水）午後6時から、今年度は、新潟薬科大学の新津駅東キャンパスの会場をお借りしまして、すまいるトークを開催いたします。テーマにつきましては、ここに書かれておりますが、市長のほうから、令和8年度予算の主な取組みというようなことを説明させていただきました、その後、意見交換となっております。事前の申し込みは不要となっております。よろしければ、直接会場のほうへお越しいただければと思います。以上です。

（渡邊会長）

ありがとうございます。そのほか、委員の皆様からのご連絡ということで、青木委員、お願いいたします。

（青木（貞）委員）

第2部会の青木でございます。皆さん、すでに承知かと思うのですが、来月から、気象情報の伝達が変わります。そんな関係で、お手元に配付してあります、カラー刷りのものが、三枚、四枚つづりでしょうか。それを見ていただければ、よく分かるのですが、おおむね何がかわるかといいますと、今までは、例えば、大雨警報が出ると、大雨警報。その後、各行政庁が判断して、レベル3とか4が出ていたのですが、これからは、5月28日からは、警報という名称が出たら、それにレベルが付記されると、こういうことになります。ということで、聞いている人が避難行動と直結するレベルがすぐ分かるということで、避難の目安になり、命を守る行動が素早く対応できると。こういうメリットがありまして、そんな関係で、5月28日から開始されます。

そして、もう一つは、今までなかったのですが、レベル4危険情報、危険警報、これが新設されました。そんな関係で、お手元に配付しました資料を見ていただいて、まず命を守る、そういうことでやっていただきたいと思います。以上でございます。

（渡邊会長）

重要な情報ありがとうございます。そのほか、皆様からのご連絡、情報共有等ございますでしょうか。

では、すみません、私から2点お願いいたします。1枚が、このピンク色の「こむすびインターン」というものです。こちら、新潟県の福祉保健部から、情報周知の依頼が来ましたので、配付させていただきました。子育て家庭への前向きなイメージを持っていただきたいということで、学生さんを子育て中、特に小学生前のお子さんを育てているご家庭にインターンとして入れるというところだそうなのです。実際、逆にポジティブ

ブになるか心配ではありますが、でも逆にこどもってこんな感じかと、具体的なイメージが抱けるかどうかというところは大事なかなと思っております。ぜひ、お近くにいらっしゃれば、インターンとして受け入れてもいいよというご家庭がございましたら、ご紹介いただけるとありがたいです。

もう一部は、おかずとおむつのお裾分けというようなチラシを1枚、すみません、お手元にあるかと思うのですが、私どもちょっと個人の団体のほうの活動で申し訳ないのですが、アンケートを活動しながら取っておりまして、おむつ代が高いですとか、物価高騰で困っているというようにお声が上がってきておりましたので、どうかそこにサポートをさせていただきたいということで、おむつは無償配布、おかずにつきましては、両立支援ということで、働いていると自分も作るっていうのがエネルギーが要りますので、月に一回、子育て中のご家庭も自分で作らずに済むシステムを作りたいと思って、こんなふうな配布をさせていただこうと思っております。こちらも、ご興味ある方、いらっしゃいましたら、ぜひ配布していただけたら、ありがたいです。

そのほかいかがでしょうか。よろしいでしょうか。ありがとうございます。

なければ、皆様のご協力のおかげで、だいが議事がスムーズに進みました。ありがとうございます。

では、これで議事を終了したいと思います。進行を事務局にお返しいたします。

5 閉会